

<調査概要>

調査時点 : 2020年6月1日

調査対象期間 : 2020年4～6月期実績及び2020年7～9月期見通しについて調査

調査対象 : 中小企業

調査方法 : 原則として、青森県内商工会、商工会議所の経営指導員、及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接、聞き取りによるもの

回収状況 : 260/287企業（有効回答率90.6%）

<今期の景況>

産業	産業別業況判断DI		売上額DI	
	前年(2019年4～6月)	今期(2020年4～6月)	前期(2020年1～3月)	今期(2020年4～6月)
全産業	△28.3	△63.2	△38.6	△72.9
サービス業	△29.7	△69.8	△30.7	△79.1
製造業	△22.5	△64.0	△20.0	△74.5
小売業	△41.4	△61.4	△63.6	△75.0
卸売業	△23.5	△57.1	△27.8	△66.6
建設業	△11.5	△48.5	△42.8	△51.5

産業	経常利益DI		今期直面している経営上の問題点第1位(%)
	前期(2020年1～3月)	今期(2020年4～6月)	
全産業	△36.1	△60.7	
サービス業	△35.2	△65.2	需要の停滞44.8
製造業	△28.0	△56.0	需要の停滞31.2
小売業	△52.3	△59.3	需要の停滞37.1
卸売業	△15.8	△62.5	需要の停滞42.9
建設業	△31.4	△57.6	従業員の確保難28.1

業況判断DIは大幅に悪化、最も悪化したのはサービス業であった。売上額DI、経常利益DIにおいても、今期の調査結果は軒並み著しく悪化を示している。

※DI…増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値。

<来期の見通し>

新型コロナウイルスの影響が拡大し、国内外に様々な影響を与え続けている。本県でも、各産業、各企業、各地域において打開策の模索が行われているが、倒産件数の増加傾向も見られ、いよいよ予断を許さない状況となっている。

来期も自粛ムードによって夏季需要が期待できない厳しい状況と予想されるが、ワクチン開発の目途が立たないため「コロナ禍の長期化」となると、各種支援策の財源の枯渇も気になるところである。来期は、今現在のコロナ禍に対応しながらも、秋冬に備えて「しっかりと企業の舵取り、事業の方向性を考える時期」と位置付けることも重要である。早急な対応、打開策が求められるが、長期戦の様相を呈しているなかでは、決して拙速であってはならない。